



◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

昨年12月に応援団交流会「エコネットカフェ2023」を開催しました！みなさん会場に集まり雰囲気を感じながら、味を堪能しながら（イタセンパラに関するお菓子があったので…）有意義な時間を過ごせたかと思います。ご協力・ご参加された皆様ありがとうございました。参加できなかった方も、今号で雰囲気を感じてくださいね♪

〔岐阜県大垣市サイトピアセンター、WEB会議〕

2023年12月10日(日)

エコネット応援団の交流会 エコネットカフェ2023を開催しました！

2023年12月10日に、大垣市サイトピアセンターにて、木曽三川流域エコネット応援団事務局と国土交通省木曽川上流河川事務所流域治水課が主催で「エコネットカフェ2023」を開催しました。総勢48名、17団体が参加し、活動発表と意見交換を行いました。

第1部の活動発表では、愛知県立一宮高等学校生物部によるジャブジャブ池（ビオトープ）の整備に関する活動の紹介、池田町のハリヨを守る会によるハリヨ調査や環境学習会の説明、羽島市のイタセンパラ保護事業協力店によるイタセンパラのお菓子作り等の取り組みを紹介しました。

第2部の意見交換では「みんなで語ろう！エコネットの未来」をテーマにグループディスカッションを行いました。グループディスカッションでは、関係者間の連携の強化や、ビオトープ整備の課題、イタセンパラやハリヨを知ってもらうにはどうすればよいかな等を活発に話し合い、FacebookやInstagramなどで検索できる共通のハッシュタグの作成、OB、OGが木曽三川流域エコネット応援団に参加できる仕組みづくりの検討など、様々な意見が出ました。



▲グループディスカッションでは活発に意見が交わされ、最後に各グループごとに発表しました。



▲会場の様子。たくさんの方々にご参加いただきました。

第1部と第2部の休憩時間中には、会場に展示した参加者のポスター等を自由に見てもらいながら、羽島市と一宮市のお菓子屋さんで取組んでいるイタセンパラをモチーフにしたお菓子（「御菓子処 黄金堂」のミルク饅頭「幸センパラ（しあわせんぱら）」や「御菓子処 兎月園」の和菓子の浮島「ねえ〜知ってる？ ITASENPARA」、吾妻堂×イタボラの「イタセンパラどらやき」）を配りました。3種類各30個あったイタセンパラのお菓子が全部なくなってしまうほど好評でした。



▲休憩中には、お菓子やグッズ等を配ったり、はりこネットワークと木曽三川流域エコネット応援団事務局が合同で作成した「水都大垣あおぞら教室」のイベントで発表した動画の上映などを行いました。



〔愛知県一宮市、岐阜県羽島市〕

2023年11月14日(火)～15日(水)

ワンド環境学習会が開催されました！

イタセンパラ保全の取り組みを進めている木曽川ワンドにおいて、イタセンパラを飼育している一宮市立起小学校と羽島市立中島小学校の4年生児童を対象に、ワンド環境学習会が開催されました。

起小学校の学習会では、木曽川の歴史と人との関わり（解説：一宮市博物館）や、ワンドの環境改善の取り組みについて学び、ワンド工事に使われている実物の機械を見学しました。（解説：株式会社川瀬組）その後、ワンドに見立てたプールで魚の採捕体験を行いました。

中島小学校の学習会では、木曽川の自然についてクイズを交えながら室内学習を行った後、木曽川ワンドに生息する魚の採捕体験やワンドの水質調査を体験してもらいました。



右上：ワンド工事に使用されている機械を見学している様子（起小学校）

右下：ワンドに見立てたプールで魚を採捕する体験をしている児童たち（中島小学校）



参加した児童からは、イタセンパラが希少であることや外来種が増えてきていること、川の水が汚れると魚が住めなくなってしまうことがわかった、川の生き物を実際にみる事が出来て楽しかったという感想をいただきました。

水都大垣 あおぞら教室 水都大垣の豊かな水を知ろう

はりんこネットワーク
川合千代子さまより
活動報告です！

将来を担う子供たちに「水都」を感じて頂けるようハリヨをバロメーターとして、大垣の湧き水はどこから来るのか紹介しました。高山の水は日本海に流れますが、御嶽山の伏流水は木曾川から、扇状地に入るとストレートに大垣に向かってきます。揖斐川や長良川の水もストレートに入ってきて、百軒堀の深井戸を掘ると、地下でぶつかり合体した水は勢いよく地上まで湧き上がります。濃尾震災時には堤防の陥没のショックで河間（がま）により自然に湧き出し、ここにもハリヨが棲息しています。

戦前は今のようポンプは無かったので、自噴水を得るために深井戸を確保しました。利用しない冷たい水は水路へ流れ出して、ハリヨが憩う環境を作り出していました。自噴水が戻って



◀当日の様子。会場で聴いているお客様にも気軽に話しかけながら、大垣の湧水を紹介しました。



来た今日、再び「水都大垣再生プロジェクト」が立ち上がり、大垣市より映像制作依頼を受け、この「エコネット応援団」と「はりんこネットワーク」代表北川松男 ほか関係者に大変な力添えをいただいています。

「イタセンパラの勉強会」が開催されました！

11/23(木・祝)に、木曾川水系イタセンパラ保護協議会の主催で、国土交通省 水辺共生体験館で開催されました。

今年度は、イタセンパラの保全の取組みや研究、調査のセミナーに加え、イタセンパラの飼育施設（岐阜県水産研究所）の見学を行いました。

セミナーでは、イタセンパラの域外保全の取組み、ワンド生息環境改善事業やイタセンパラと二枚貝のモニタリング調査結果の紹介、淀川水系でのイタセンパラ保全の取組み、外来種がイタセンパラに及ぼす影響や羽島市におけるイタセンパラ保護活動の取組みについての紹介がありました。

その後、岐阜県水産研究所の展示を見て、イタセンパラを飼育している水槽で、本物のイタセンパラを観察しました。



▲岐阜県水産研究所の水槽。ここで本物のイタセンパラを飼育しています。

海津マルシェに エコネット応援団 PRブースを出展



アクアワールド水郷パークセンターで開催された海津アクアマルシェに、ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会が、木曾三川流域エコネット応援団のPRブースを出展しました！

ブースでは、ニホンウナギ生態系ネットワークの活動紹介のほか、川で獲れた天然ウナギと養殖ウナギの違いを観察したり、川の生き物とのふれあい体験、ニホンウナギを捕獲するための伝統漁法である「石倉カゴ」等の展示も行われました。



▲ウナギの食べ比べ。なかなか出来ない体験です。

また、天然ウナギと養殖ウナギの試食体験も行い、食べ比べをしたお子さんからは、どちらも美味しいけれど、天然ウナギの噛み応えが全然違う！といった感想をいただきました。



木曾三川流域エコネット応援団事務局の Instagram アカウントを開設いたしました！

https://www.instagram.com/kiso_econet/

※ Instagram の運用にあたり、運用方針を取り決めていただきましたので、ご一読いただき、ぜひフォローしてください！



KISO_ECONET

掲載用情報を募集しています！

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曾三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曾三川流域

！ぜひご覧ください！



Facebookにて
情報を発信中！

<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曾川上流河川事務所）は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成 26 年度に設立されました。

本協議会では、木曾三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曾三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曾三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojoyo/econet/index.html>

木曾三川流域エコネット応援団 事務局：国土交通省 木曾川上流河川事務所 流域治水課（岐阜県岐阜市忠節町 5-1）

【問い合わせ先】木曾川上流河川事務所 流域治水課 e-mail: cbr-kisojoyo-chosa@mlit.go.jp / tel: 058-251-1125

